

「さいたま市民の政治・選挙に関する意識調査」(2021)

ー ライフ・スタイルと政治意識 ー

Public Opinion Research "Saitama Shimin Seiji Isiki Chosa"(2021) : Life-Style and Political Consciousness of the Ordinary Citizen

松本 正生

Masao Matsumoto

はじめに

1. ライフ・スタイル

1-1. コミュニケーション・ツール

1-2. 家庭環境

1-3. 情報行動

2. 政治意識

2-1. 政治満足度

2-2. 政治家信頼度

2-3. 政治不満と政治家不信

まとめにかえて

資料 : 調査票と回答結果(2021)

〈要旨〉

埼玉大学社会調査研究センターは、2013年よりアニュアルで「さいたま市民の政治・選挙に関する意識調査(郵送調査)」を実施している。2021年の調査は、9回目に相当する。2021年の結果を過去8年間の推移と比較すると、主に、以下の3つの事項に関して、これまでとは異なる傾向が確認された。

第1は、情報行動、すなわち、「社会の情報を得るための媒体」や「ニュースを見る手段」に関して、2020年までは直線的に増加していたインターネットの割合に、減少が生じていることである。第2は、2020年には不満度や不信度が最高値にあった「政治満足度」や「政治家信頼度」に関して、2021年は、不満度、不信度がともに減少したことである。第3は、政治満足度と政治家信頼度との関係において、18~29歳の最若年層に存在した、「政治に対する不満が低いにもかかわらず、政治家不信が非常に高い」という固有の特徴が確認できなかったことである。これは、政治家不信度が低下したことに起因している。

The Saitama University Social Survey Research Center has been conducting the "Saitama Citizens: Survey on Political Attitudes (Mail Survey)" on an annual basis since 2013; the 2021 survey was the ninth of these. When compared to the previous eight years, the results of the 2021 survey showed different trends in the following three main areas.

First, with regard to information behavior, that is, "media for obtaining information about society" and "means of watching the news," there was a decrease in the proportion of Internet use, which had been increasing linearly until 2020.

Second, with regard to "political satisfaction" and "trust in politicians," which were at their highest levels of dissatisfaction and distrust in 2020, both dissatisfaction and distrust decreased in 2021.

Third, in the relationship between political satisfaction and trust in politicians, we were unable to confirm a unique tendency that had existed in the youngest age group (18-29), namely, very high distrust in politicians despite low dissatisfaction with politics. This was due to the fact that the level of distrust in politicians decreased.

はじめに

埼玉大学社会調査研究センターは、2021年6月に「さいたま市民の政治・選挙に関する意識調査」を実施した。調査対象は、さいたま市の10区の選挙人名簿から各区の有権者数に比例する形で抽出した1,000人、調査方法は郵送法を採用している。有効回答者数は636人(有効回収率64%)であった。コロナ禍という状況にもかかわらず、回答を返送して下さった、さいたま市民のみなさまに、深く感謝申し上げる次第である(調査票と単純集計結果、および、属性別クロス集計表は後掲)。

本年は、5月にさいたま市長選挙が実施されたことから、さいたま市選挙管理委員会との共同調査として実施した。さいたま市選挙管理委員会と埼玉大学社会調査研究センターは、前回2017年の市長選の際にも、同一の方法による意識調査を実施している。2回(2017年、2021年)の市長選における投票行動の追跡質問結果の分析に関しては、本誌に後掲の『さいたま市長選(2021)追跡調査』結果を参照されたい。

埼玉大学社会調査研究センターでは、年1回の定例調査として、「さいたま市民の政治・選挙に関する意識調査」を実施し続けてきた。同調査は、2013年に開始し2021年には9回を数えるに至った。調査対象数、抽出方法、および、実査方法については、同一の手法を採用している。9年にわたる調査の回収状況は〔表1〕の通りである(注1)。

調査の内容には、政治に関するいくつかの質問を継続的に採用するとともに、国内のトピックやさいたま市の課題など時宜に応じた質問を設定してきた。また、ライフ・スタイルの実態やデモグラフィック指標については固定化した。有効回収率が一貫して60%台を保ち続けていることで、継続質問の結果に関する時系列的推移の客観性が担

保されるという幸運にも恵まれている。

本小論では、継続的に採用してきた質問に対する回答結果に焦点を当て、9年目に相当する2021年の調査結果を新たに加えることで、市民のライフ・スタイルと政治意識の軌跡をトレースしたい。

1. ライフ・スタイル

1-1. コミュニケーション・ツール

・スマートフォン保有率

ライフ・スタイルに関する経年の推移の中では、コミュニケーションや情報源に関して、大きな変化が見受けられる。とりわけ、コミュニケーションのデバイス、すなわち、「スマートフォンの保有率」に急速な増加傾向が存在する。

「スマートフォンを所有し、使用する人たちが社会の圧倒的多数を占めるようになったということは、単に『固定から携帯へ』という表象的なデバイスの変化にとどまらず、コミュニケーションのあり方の変容を意味する。スマホを通じたコミュニケーションの一般化とは、日常の対話はもちろん、仕事の場面でも、生(マ)の声のやりとりによるvoice to voiceではなく、テキストメッセージを中心としたtype to type に変わりつつあることを反映している。通話(talking)からメッセージ(typing)へ、いわば『ノン・スポークン(Non-spoken)』コミュニケーション社会への変容と表現することができ(た)」(松本正生, 2021, p. 19)。

〔表2〕を参照されたい。「スマートフォンの保有率」は、2013年の39%から毎年直線的に増加してきたが、2021年には85%に到達するに至った。まさに「スマホの席卷過程」と表現できよう。

年齢別のブレイクダウンは、〔表3〕にまとめた。直近の2,3年間の特徴として、60代以上の中高年層における保有者の劇的な増加が顕著である。2020年~2021年の1年間を比較すると、60代の

〔表1〕さいたま市民「政治・選挙に関する意識調査」(郵送調査)

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
調査時期	5月	5月	5月	8月	7月	8月	6月	8月	6月
有効回答数	694	616	610	622	653	628	602	624	636
同回収率	69%	62%	61%	62%	65%	63%	60%	62%	64%

〔表2〕スマートフォン保有率

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
全体	39	45	54	61	65	72	78	82	85

(%)

保有率が74%から91%に上昇し、ほぼ標準装備となったことが確認できる。60代の保有率が、全体の保有率上昇に貢献していることは明らかだろう。

ただ、70代以上に関しては、推移の様相がやや異なる。2019年～2020年のわずか1年で44%から69%に25ポイントも増加した70代だったが、2021年は2020年と同率の69%にとどまった。さらに、直線的な増加傾向を示していた80歳以上についても、2020年の32%から2021年は25%に減少している。高齢層においては、「スマホの席巻」も頭打ちになったということなのだろうか。コロナ禍で外出が規制され、家庭にこもる日常が影響しているのかもしれない。

・固定電話保有率

固定電話の保有率については、〔表4〕に明らかのように、ゆるやかではあるものの、減少傾向が続いている。

・種類別電話使用状況

次に、電話の種類別使用状況を確認してみよう。〔表5〕を参照されたい。2021年には、「固定電話だけ」が6%に減少し、2020年に前年の9%から12%に微増した「主に固定電話」の比率も、再び一桁の9%に低下している。一方、「携帯電話だけを使う」という携帯オンリー派の割合は、34%(2020年)から42%(2021年)に増加している。

「固定だけ」+「主に固定」=「固定メイン」、
「携帯だけ」+「主に携帯」=「携帯メイン」に集計し直した〔表6〕を見ると、2021年には「固定メイン」が15%、「携帯メイン」が78%で、両者の比率の相違はさらに広がっている。「携帯メイン」派は支配的なシェアを占めるに至った。保有率と使用率との関係からは、固定電話とは「持つてはいるが使わない」、言い換えるならば、「家にはあるが使用していない」ものという状況が示唆され

〔表3〕スマートフォン保有率（年齢別）

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
18～29歳	100	98	100	97	98	98
30代	94	98	95	99	97	99
40代	87	84	90	94	97	98
50代	67	74	83	89	94	94
60代	41	51	63	69	74	91
70代	19	29	36	44	69	69
80歳以上	4	8	14	26	32	25

(%)

〔表4〕固定電話保有率

2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
89	89	85	86	85	83	75	78	74

(%)

〔表5〕種類別電話使用状況

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
固定電話だけを使う	12	11	11	9	9	8	8	9	6
携帯電話だけを使う	19	20	21	24	26	28	37	34	42
両方使うが主に固定電話	22	23	19	17	14	13	9	12	9
両方使うが主に携帯電話	37	36	40	41	41	42	37	38	36
両方とも同じ程度使う	10	9	8	7	9	6	7	6	6

(%)

〔表6〕種類別電話使用状況

(固定メイン=固定だけ+主に固定、携帯メイン=携帯だけ+主に携帯)

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
固定メイン	34	34	30	26	23	21	17	21	15
携帯メイン	56	56	61	65	67	70	74	72	78

(%)

よう。

・世帯状況

個々人の家庭環境については、安定的な傾向が継続している。〔表7〕は、世帯の状況について、「一人住まいか家族との同居か」を聞いた結果を示している。「一人住まい」、「家族と同居」の双方とも、割合にほとんど変化はみられない。

・住居形態

住居の形態、すなわち、「住まいは、持ち家か賃貸か」質問の結果をまとめた〔表8〕を参照されたい。こちらも、世帯状況と同様に、「持ち家」、「賃貸」、それぞれの割合に変化はみられない。「持ち家」が8割弱、「賃貸」がほぼ2割で安定している。生活実態=ライフ・スタイルでも、コミュニケーションや情報源といったソフト面とは異なり、世帯の人数や住居の形態など、人々を取り囲むハード面に関しては、2013年～2021年の9年間の、安定した回答傾向、言い換えるならば、継続的な日常を確認することができよう。

1-2. 情報行動

・社会の情報源

ここからは、社会の情報源に関して確認したい。〔表9〕は、「社会についての情報を得る際に、最も利用しているもの」を聞いた結果である（注2）。「テレビ」が多数を占め続けているものの、比率はやや減少傾向にあり、2021年は42%となった。

これに対して、「インターネット」は、2014年の15%から大きく増加し2020年には36%と「テレビ」に迫る比率を占めるに至った。早ければ2021年、遅くとも数年後には、「テレビ」に代わり「インターネット」が情報源の主役となるであろうと推測された。ところが、2021年には5ポイント減少の31%にとどまった。来年度以降の「インターネット」比率の推移が注目される。

一方、「新聞」は減少傾向が止まらず、2020年には一桁台に落ち込んだものの、2021年には4ポイント増の13%に持ち直している。

・政治の情報源

次に、テレビ、新聞、インターネット、それぞれに関して、「普段、政治のニュースをどの程度見たり、読んだりするか」を聞いた結果を、〔表10〕にまとめた。三つのメディアへの接触度を比較すると、「ほぼ毎日」の割合はテレビが常に最も高く、新聞とインターネットについては、2020年に、これまでの新聞>インターネットからインターネット>新聞への逆転が生じている。2021年も、この流れの延長線上にあると考えられる。

しかしながら、インターネットに関しては、22%(2016)→31%(2018)→47%(2020)と、直線的に増加してきた「ほぼ毎日」の比率が、今回は41%と6ポイント減少し、先の「社会の情報源」結果と共通する傾向が存在している。やはり、頭打ちと解

〔表7〕 世帯状況

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
一人住まい	11	12	12	12	11	11	10	13	11
家族と同居	84	82	82	83	88	87	89	86	87

(%)

〔表8〕 住居形態

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
持ち家	78	75	77	77	76	78	75	76	78
賃貸	20	23	21	21	22	20	24	21	20

(%)

〔表9〕 社会の情報源（1つだけ）

	2014	2017	2018	2019	2020	2021
テレビ	50	42	51	46	44	42
ラジオ	4	2	2	1	3	2
新聞	20	20	12	14	9	13
インターネット	15	20	33	31	36	31

(%)

【表 10】政治ニュースを見る頻度

テレビ				
	2016	2018	2020	2021
ほぼ毎日	54	56	70	67
週に1回以上	25	22	16	18
あまり見ない	17	16	9	10
まったく見ない	3	4	4	4
わからない	0	1	1	1
(%)				
新聞				
	2016	2018	2020	2021
ほぼ毎日	26	29	33	30
週に1回以上	21	13	10	14
あまり見ない	27	24	17	17
まったく見ない	21	32	39	37
わからない	1	1	1	0
(%)				
インターネット				
	2016	2018	2020	2021
ほぼ毎日	22	31	47	41
週に1回以上	20	19	18	18
あまり見ない	23	23	13	17
まったく見ない	28	24	18	19
わからない	2	2	2	1
(%)				

積すべきなのだろうか。なお、新聞については、先の「社会の情報源」

では、2020年から2021年への若干の増加が存在したが、「政治のニュースを見る頻度」では「ほぼ毎日」が33%(2020)→30%(2021)と、わずかながら減少している。

「ほぼ毎日」の比率を年齢別にブレイクダウンすると、より詳細な傾向が明らかとなる。〔表 11〕を参照されたい。2020年から2021年にかけて、全体での割合が70%から67%へとわずかに減少したテレビをみると、18～29歳の最若年層で55%(2020)から40%(2021)と大きく低落している。とはいうものの、2016年や2018年と比べれば、高比率を維持している。他の年代についても、30代から60代までの実年世代を中心に、2020年に上昇した水準を維持していることが見受けられる。2020年における上昇とは、すなわち、新型コロナウイルスに関する情報源としてテレビニュースへの接触度が増加したことを示唆していよう。

新聞に関しては、2020年はテレビと同様の増加傾向がみられたが、2021年には18～29歳、40代、50代などの比較的若い年齢層において、2018年までの数値へと逆戻りしたことが確認できる。

【表 11】政治ニュースを見る頻度（年齢別）

テレビ：ほぼ毎日				
	2016	2018	2020	2021
18～29歳	32	26	55	40
30代	35	38	53	53
40代	48	49	65	59
50代	56	59	69	71
60代	69	73	78	88
70代	64	71	85	75
80歳以上	65	78	77	77
全体	54	56	70	67
(%)				
新聞：ほぼ毎日				
	2016	2018	2020	2021
18～29歳	3	6	8	-
30代	7	5	9	11
40代	13	17	23	14
50代	28	24	32	29
60代	41	47	43	45
70代	50	51	52	47
80歳以上	41	54	60	63
全体	26	29	33	30
(%)				
インターネット：ほぼ毎日				
	2016	2018	2020	2021
18～29歳	32	26	45	31
30代	30	32	49	51
40代	30	46	66	63
50代	19	34	62	51
60代	17	29	52	42
70代	11	20	31	21
80歳以上	4	8	7	7
全体	22	31	47	41
(%)				

注目されるインターネットについて、みてみよう。2020年から2021年にかけて、「ほぼ毎日」の比率を大きく減少させているのは、18～29歳(45%→31%)、50代(62%→51%)、60代(52%→42%)、70代(31%→21%)である。他の40代や80歳以上なども増加はみられない。2020年までの全年代における直線的な増加傾向は、従来は新聞やテレビで視聴した情報を、インターネットで取得するようになった人たちが増加したことによると推測された。今回の傾向の解釈については、若干の検討を要するようになると思われる。「政治ニュース」という限定が、影響しているのだろうか。

2. 政治意識

2-1. 政治満足度

ここからは政治意識を取り上げたい。政治に対する満足度と政治家への信頼度についてみていこう。〔表 12〕を参照されたい。「現在の政治に対してどの程度満足しているか」を「大いに満足している」・「だいたい満足している」・「やや不満足である」・「大いに不満足である」の四択で聞いた結果である。表中の「満足」は「大いに満足している」+「だいたい満足している」を、「不満足」は「やや不満足である」+「大いに不満足である」の比率を示している。

「満足」対「不満足」は2016年を起点にすると、2割：7割で、不満が大多数を占めている。2021年も、基本的な構図に変化はないものの、2020年に76%に上昇した「不満足」の比率が、71%へと5ポイント減少している。

年齢別の結果は、〔表 13〕にまとめた。まず、「満足」に関して、年齢による傾向差が存在している。80歳以上の最高年齢層では2020年の23%から2021年の46%と倍増しているのに対して、18～29歳と30代の若年層においては逆に比率が減少している。一方、「不満足」については、60代を除くすべての年代で、減少という共通傾向が見受け

られる。すなわち、若年層では、満足度も不満足度も共に減少していることになる。「満足」と「不満足」とを合計すると、18～29歳の92%(2020)→74%(2021)という大幅な減少をはじめとして、30代が94%(2020)→83%(2021)へ、40代も97%(2020)→92%(2021)へと低下している。

「政治に満足か、不満か」と問われて、「満足」とも「不満」とも反応しない。いわば意思表示比率の低下とは、政治に期待する尺度を下げたことを示唆するのか、それとも、政治に批判や不満を表明しても仕方がないという無力感ゆえなのか、はたまた、政治の存在感ないし認知度の低下を意味するのか。コロナの渦中という社会状況が、どのように関連しているのだろうか。

2-2. 政治家信頼度

次に、政治家への信頼度はどうだろうか。「日本の政治家(国会議員、地方議員、首長など)について、どんな印象を持っていますか」と聞き、「とても信頼できる」・「ある程度信頼できる」・「あまり信頼できない」・「全く信頼できない」の四択で回答を求めた結果である。〔表 14〕の数値は、「信頼できる」=「とても信頼できる」+「ある程度信頼できる」、「信頼できない」=「あまり信頼できない」+「全く信頼できない」に相当する。

〔表 12〕 政治満足度

	2016	2018	2020	2021
満足	23	20	18	18
不満足	69	71	76	71

(%)

〔表 13〕 政治満足度 (年齢別)

	2016		2018		2020		2021	
	満足	不満足	満足	不満足	満足	不満足	満足	不満足
18～29歳	31	54	26	46	30	62	21	53
30代	24	66	15	71	16	78	11	72
40代	22	72	25	68	19	78	19	73
50代	15	79	17	78	11	83	13	79
60代	22	71	15	80	17	80	9	83
70代	27	67	18	79	17	79	20	73
80歳以上	24	61	35	62	23	61	46	46
全体	23	69	20	71	18	76	18	71

(%)

〔表 14〕 政治家信頼度

	2016	2018	2020	2021
信頼できる	28	23	19	24
信頼できない	67	72	76	70

(%)

〔表 15〕政治家信頼度（年齢別）

	2016		2018		2020		2021	
	信頼できる	信頼できない	信頼できる	信頼できない	信頼できる	信頼できない	信頼できる	信頼できない
18～29歳	14	75	15	74	15	80	22	67
30代	22	72	20	77	12	81	11	84
40代	26	70	19	74	22	72	21	72
50代	24	72	23	74	14	85	23	73
60代	31	64	23	74	20	78	24	70
70代	39	59	27	70	23	73	26	70
80歳以上	37	52	54	43	30	58	51	40
全体	28	67	23	72	19	76	24	70

(%)

2020年までは、年を経るたびに「信頼できる」が減少し、「信頼できない」が増加するという傾向が存在し、「信頼できない」比率は2020年に76%と大多数に達していた。ところが、2021年は、「信頼できる」が19%(2020)→24%(2021)に上昇し、「信頼できない」も76%(2020)→70%(2021)に減少している。高比率基調に変わりはないとはいえ、「政治家不信」にもやや持ち直しの兆しが見受けられる。

年齢別の比率を〔表 15〕で確認してみよう。「信頼できる」については、80歳以上における2020年の30%から2021年の51%への増加をはじめとして、18～29歳、50代、60代、70代など、中高年層を中心に上昇傾向が存在する。「信頼できない」の比率に関しても、30代を除くと、18～29歳、および50代以上の中高年層はすべて減少している。中高年層においては、「信頼できる」、「信頼できない」の双方とも、ほぼ2018年までの水準に戻ったと解釈できる。

これに対して、30代の2021年の比率は、「信頼できる」が最低の11%、「信頼できない」は最高の84%で、他の年代とは逆の傾向を示している。40代についても、「信頼できる」の微減、「信頼できない」は横ばいという中高年層とは異なる傾向が存在する。同じ若年層同士を比較しても、18～29歳の2021年の割合が、「信頼できる」は最高の22%に、「信頼できない」が最低の67%に相当するのは対照的な構図となっている。

いずれにせよ、18～29歳や50代以上における上記の結果は、いささか解釈に苦しむを得ない。なぜなら、調査を実施した2021年6月は、新型コロナウイルスの感染が拡大し、これに対して政府をはじめとする行政が有効な手立てを打てないという状況にあった。しかも、緊急事態宣言の

発令やオリンピックへの対応をめぐり、政治の判断が混乱していた。実際、報道機関の世論調査では、菅内閣の支持率が低落していた。政権や政治家からの社会への発信がインパクトを持ちえないという現状にもかかわらず、現在の政治への不満度が減少し、さらには、政治家への信頼度が上昇し・不信度が減少しているからにはほかならない。

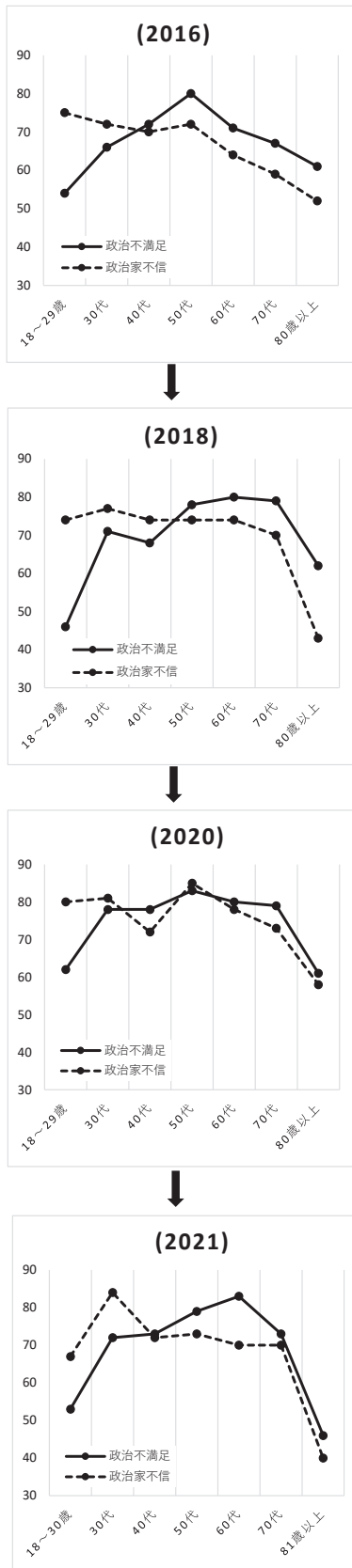
2-3. 政治不満と政治家不信

〔図〕は、全体で大多数の割合を占める「政治不満」と「政治家不信」とを年齢別にプロットしたものである。2016年から2020年までの3つの図においては、各年の形状に共通傾向が見受けられ、2つの指標の関係は、若年層で「政治不満」<「政治家不信」、中高年層で「政治不満」≥「政治家不信」を示している。

何より注目すべきは、30代以上のすべての年代においては「政治不満」と「政治家不信」の比率にそれほど相違が存在しないのに対し、18～29歳だけは、比率の差が非常に大きいこと、それは「政治不満」の度合いの低さに起因していることであつた。「政治に対する不満が低いにもかかわらず、政治家不信は非常に高い、若年層におけるこの傾向差については、一般的な政治に関するリアリティが希薄な一方で、メディアを通じた政治家のマイナス・イメージが政治を認識する契機となっているという推測が成り立(つた)」(松本, 同, p. 22)。

ところが、2021年には18～29歳の政治家不信度が低下したため、低い政治不満と高い政治家不信が共存するという若年層固有の特性が相対化するに至った。若者の政治家不信を低下させる何らかの要因が介在したのか。それとも、政治家イメージそのものが希薄化したことによるのだろうか。

【図】「政治不満」と「政治家不信」(年齢別)



まとめにかえて

埼玉大学社会調査研究センターがアニュアルで実施した「さいたま市民の政治に関する意識調査」の2021年結果を、同一質問に対する経年の推移と比較しながら概観してきた。2021年の結果は、主に、以下の3つの事項に関して、過去8年間の推移とは異なる傾向が確認された。

第1は、情報行動、すなわち、「社会の情報を得るための媒体」や「ニュースを見る手段」に関して、2020年までは直線的に増加していたインターネットの割合に、減少が生じていることである。コロナ禍という社会の状況が影響しているのだろうか。

第2は、2020年には不満度や不信度が最高値にあった「政治満足度」や「政治家信頼度」に関して、2021年は、不満度、不信度がともに減少したことである。

第3は、政治満足度と政治家信頼度との関係において、18~29歳の最若年層に存在した、「政治に対する不満が低いにもかかわらず、政治家不信が非常に高い」という固有の特徴が確認できなかったことである。これは、最若年層の政治家不信度が低下したことに起因している。

加えて、政治満足度に関しては、若年層を中心に、満足度も不満度も減少するという、いわば意思表示比率自体の低下も確認された。

2021年調査にみられた、これらの新たな傾向は、市民の意識や態度における何らかの変容を示唆していると思われるが、ここはひとまず、軽々な判断や解釈は差し控えておきたい。次年度の調査結果に待ちたい(注3)。

(注)

- 1) [表16]は、さいたま市における有権者の年齢別構成と調査回答者の年齢別構成を比較したものである。
- 2) 社会の情報源質問は、表中の年度以外の調査でも採用している。しかしながら、他の年度は選択数を「2つまで」としており、比較基準を統一するため、「1つだけ」を採用した年度に限定した。
- 3) 2021年の調査の運用および結果の集計については、埼玉大学社会調査研究センターの菱山智香子さんの多大な貢献に依拠している。記して謝意に代えたい。

〔表 16〕 有権者の年齢構成と調査回答者の年齢構成

	2013		2015		2017		2019		2021	
	有権者	回答者	有権者	回答者	有権者	回答者	有権者	回答者	有権者	回答者
18・19歳					2	2	2	1	2	2
20代	13	8	13	8	12	7	12	8	13	7
30代	18	17	17	14	15	14	15	14	15	12
40代	20	21	21	19	20	19	20	21	19	19
50代	15	16	15	16	15	16	16	18	17	20
60代	16	18	15	16	15	17	13	13	13	14
70代			12	17	12	16	13	19	13	17
80歳以上	18	19	7	8	7	8	8	5	9	9

※2013年は70歳以上

(%)

(引用文献)

松本 正生 (2021) 「ライフ・スタイルの変容と政治意識の軌跡 — 『さいたま市民:政治に関する意識調査』(2013~2020)—」, 『政策と調査』第 20 号, 2021. 3

さいたま市民政治意識調査2021

性別・年齢クロス集計

Q 1. あなたは、国や地方の政治について、どの程度関心がありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	非常に 関心がある	ある程度 関心がある	あまり 関心がない	全く関心がない	わからない
男性	20%	58%	19%	2%	1%
女性	8%	62%	23%	4%	1%
18～29歳	5%	43%	34%	17%	—
30代	9%	49%	37%	4%	1%
40代	13%	63%	20%	4%	—
50代	13%	63%	21%	2%	2%
60代	17%	69%	13%	—	1%
70代	17%	68%	13%	—	2%
80歳以上	19%	58%	19%	—	2%
全体	13%	61%	21%	3%	1%

Q 2. あなたは、誰かと政治的な事柄を議論したり、話題にしたりすることがありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	毎日ある	週に何回かある	週に1度 ぐらいある	まったくない	その他	わからない
男性	3%	23%	37%	29%	8%	1%
女性	3%	23%	32%	25%	13%	3%
18～29歳	3%	10%	26%	52%	7%	2%
30代	3%	20%	35%	37%	4%	1%
40代	3%	21%	38%	23%	13%	2%
50代	4%	27%	35%	24%	9%	2%
60代	6%	26%	39%	13%	17%	—
70代	1%	26%	32%	23%	11%	5%
80歳以上	2%	25%	30%	30%	11%	2%
全体	3%	23%	34%	27%	10%	2%

Q 3. あなたが学生時代に経験した選挙に関する授業やイベント（行事）で印象に残っているものはありますか。あてはまるものすべてを選んで○をつけてください。

	学校での授業	選挙出前講座・模 擬投票	明るい選挙 啓発ポスター コンクール	生徒会・学級 委員などの選挙	国会・県議会など の議事堂見学	その他	特にない
男性	18%	3%	1%	37%	22%	3%	41%
女性	21%	1%	8%	44%	23%	2%	30%
18～29歳	34%	3%	3%	33%	34%	2%	26%
30代	29%	3%	4%	39%	23%	4%	37%
40代	19%	2%	6%	42%	27%	2%	33%
50代	14%	3%	6%	47%	24%	—	37%
60代	18%	—	7%	47%	22%	2%	32%
70代	14%	—	3%	39%	15%	6%	39%
80歳以上	18%	7%	7%	30%	16%	2%	37%
全体	20%	2%	5%	41%	23%	2%	35%

Q 4. あなたは、5月23日のさいたま市長選挙について、どの程度関心がありましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	非常に関心があっ た	ある程度関心があ った	あまり関心がな かった	全く関心がなかつ た	わからない
男性	9%	35%	35%	19%	1%
女性	5%	40%	40%	14%	1%
18～29歳	3%	28%	31%	33%	5%
30代	5%	32%	38%	23%	3%
40代	6%	30%	43%	21%	1%
50代	8%	35%	42%	15%	—
60代	5%	43%	40%	11%	1%
70代	6%	51%	33%	9%	—
80歳以上	21%	42%	28%	4%	2%
全体	7%	37%	38%	16%	1%

Q5. あなたは、5月23日のさいたま市長選で投票しましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	投票した	投票しなかった	わからない
男性	43%	57%	-
女性	42%	58%	0%
18～29歳	38%	62%	-
30代	29%	71%	-
40代	34%	66%	-
50代	48%	52%	1%
60代	45%	53%	-
70代	53%	47%	-
80歳以上	47%	53%	-
全体	42%	57%	0%

Q6. あなたは、どなたと投票に行きましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	1人で	家族と	知人等と	その他
男性	50%	49%	-	-
女性	41%	59%	-	-
18～29歳	45%	55%	-	-
30代	39%	61%	-	-
40代	37%	63%	-	-
50代	38%	60%	-	-
60代	63%	38%	-	-
70代	47%	53%	-	-
80歳以上	52%	48%	-	-
全体	46%	54%	-	-

Q7. あなたは、さいたま市長選挙で候補者を選ぶ時、どういう点を考えて投票する人を決めましたか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

	地元の利益を 考えて	自分と同じ ような職業の 利益を考えて	自分と同じ ような世代の 利益を考えて	候補者の政策や主 張を考えて	候補者の人柄を考 えて
男性	31%	4%	9%	65%	33%
女性	33%	5%	16%	65%	35%
18～29歳	18%	14%	18%	41%	27%
30代	35%	-	39%	61%	22%
40代	41%	10%	24%	78%	34%
50代	30%	7%	3%	63%	25%
60代	30%	-	-	70%	28%
70代	40%	2%	11%	56%	56%
80歳以上	19%	-	11%	85%	33%
全体	32%	4%	13%	65%	34%
	テレビや新聞、 雑誌などで 親しみを感じて いたから	家族や知人に勧め られたから	その他	わからない	候補者の人柄を考 えて
男性	5%	4%	15%	1%	33%
女性	5%	4%	10%	2%	35%
18～29歳	14%	-	23%	-	27%
30代	-	-	4%	9%	22%
40代	2%	7%	5%	-	34%
50代	3%	3%	22%	-	25%
60代	5%	-	18%	5%	28%
70代	4%	11%	5%	-	56%
80歳以上	15%	-	7%	-	33%
全体	5%	4%	12%	1%	34%

Q 8. あなたが、さいたま市長選挙で投票所に行った際に、どのような交通手段を利用しましたか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

	徒歩	自転車、バイク	自家用車	タクシー	公共交通（JR・私鉄・バスなど）	その他
男性	64%	18%	17%	-	1%	-
女性	60%	16%	22%	-	1%	-
18～29歳	55%	36%	9%	-	-	-
30代	78%	17%	4%	-	-	-
40代	66%	7%	22%	-	2%	-
50代	58%	13%	27%	-	2%	-
60代	65%	18%	18%	-	-	-
70代	56%	19%	25%	-	-	-
80歳以上	63%	19%	19%	-	-	-
全体	62%	17%	20%	-	1%	-

Q 9. さいたま市長選挙では新型コロナウイルス感染症対策の一つとして、投票所の混雑を避けるために過去の混雑状況を、投票所整理券に同封の啓発紙やホームページ等で周知しました。あなたは、投票の際に、混雑状況を参考にしましたか。

	参考にした	参考にしなかった
男性	27%	71%
女性	30%	66%
18～29歳	9%	82%
30代	22%	74%
40代	22%	76%
50代	15%	85%
60代	23%	78%
70代	46%	51%
80歳以上	63%	26%
全体	29%	68%

Q 10. Q 9で「1. 参考にした」と回答された方について、どちらで投票をしましたか。

	期日前投票所で投票した	当日の投票所で投票した	その他
男性	42%	58%	-
女性	50%	48%	-
18～29歳	50%	50%	-
30代	60%	40%	-
40代	44%	56%	-
50代	33%	67%	-
60代	78%	22%	-
70代	46%	54%	-
80歳以上	35%	59%	-
全体	47%	52%	-

Q11. あなたが投票しなかったのは、なぜですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

	仕事や旅行など、他の用事があったから	病気などで体調が悪くなかったから	投票に行こうと思ったが、忘れてしまったから	どのように投票すればよいかわからなかったから	市長選挙があることを知らなかったから	投票するのが面倒だったから
男性	25%	7%	13%	1%	11%	7%
女性	16%	18%	13%	1%	6%	14%
18～29歳	17%	3%	8%	6%	36%	14%
30代	32%	5%	20%	-	11%	13%
40代	28%	4%	15%	1%	5%	13%
50代	23%	11%	14%	-	6%	15%
60代	19%	9%	15%	-	2%	9%
70代	6%	29%	8%	-	4%	6%
80歳以上	-	50%	10%	-	3%	3%
全体	20%	13%	13%	1%	9%	11%
	投票日時や投票場所がわからなかったから	投票所整理券（入場券）を紛失したから	政治や選挙に関心がなかったから	投票したいと思う候補者がいなかったから	政策がわからなかったから	自分の一票では選挙の結果は変わらないから
男性	1%	1%	9%	30%	15%	15%
女性	2%	-	11%	24%	13%	14%
18～29歳	8%	-	19%	17%	8%	8%
30代	-	2%	14%	13%	23%	16%
40代	1%	-	8%	33%	11%	16%
50代	2%	2%	18%	25%	14%	15%
60代	2%	-	4%	51%	15%	19%
70代	-	-	6%	33%	16%	16%
80歳以上	-	-	-	7%	3%	10%
全体	2%	1%	10%	27%	14%	15%
	選挙によって世の中は変わらないから	新型コロナウイルスの感染が怖かったから	その他	わからない		
男性	9%	12%	12%	1%		
女性	11%	23%	14%	-		
18～29歳	3%	8%	11%	3%		
30代	16%	20%	14%	-		
40代	13%	22%	15%	-		
50代	6%	8%	14%	-		
60代	11%	19%	13%	-		
70代	16%	27%	14%	-		
80歳以上	3%	23%	7%	3%		
全体	10%	18%	13%	1%		

Q12. あなたは、どういう状況ならば投票しようと思いますか。2つまで選んで番号に○をつけてください。

	投票所が近かったら	投票所までの無料バスなどが運行されたら	区内の投票所であればどこでも投票できたら	駅やショッピングセンターなどで投票できたら	期日前投票が早朝や午後8時以降もできたら	投票日の投票時間が延長されたら	インターネットや郵送による投票ができたなら
男性	18%	-	5%	12%	8%	2%	55%
女性	14%	1%	6%	28%	5%	3%	53%
18~29歳	11%	-	3%	28%	3%	6%	78%
30代	13%	-	2%	13%	13%	4%	68%
40代	10%	-	1%	23%	4%	3%	63%
50代	14%	-	2%	26%	6%	-	55%
60代	23%	-	15%	26%	2%	4%	49%
70代	22%	2%	8%	20%	14%	2%	24%
80歳以上	27%	3%	17%	7%	3%	-	30%
全体	16%	1%	5%	21%	7%	2%	54%

Q13. 今回の市長選挙で、さいたま市選挙管理委員会及び明るい選挙推進協議会等が投票参加の呼びかけを行いました。下の中であなたが見たり聞いたりしたものがあれば、すべて選んで番号に○をつけてください。

	市役所・区役所でののぼり旗など	横断幕・懸垂幕（駅や市・区役所）	啓発ポスター（自治会掲示板等）	投票所整理券に同封されている啓発チラシ	市報さいたま	市の選挙特設ページ	サッカースタジアムでの大型映像広告
男性	10%	6%	33%	20%	31%	6%	-
女性	10%	9%	41%	21%	37%	3%	-
18~29歳	5%	7%	16%	3%	3%	7%	-
30代	10%	9%	30%	20%	24%	-	-
40代	10%	8%	33%	17%	22%	5%	-
50代	9%	10%	35%	25%	29%	2%	-
60代	11%	11%	55%	20%	41%	2%	-
70代	13%	6%	44%	27%	62%	8%	-
80歳以上	9%	2%	46%	26%	56%	9%	-
全体	10%	8%	37%	21%	34%	5%	-

Q14. 今回の市長選挙で、あなたが候補者を選ぶためにもっとも参考にしたものを2つまで選んで番号に○をつけてください。

	選挙公報	候補者の新聞広告	新聞・雑誌やテレビの報道	インターネットやホームページの選挙情報	掲示場にはられた候補者のポスター	候補者からのハガキ	候補者による駅や街頭での演説
男性	32%	10%	12%	11%	18%	2%	4%
女性	28%	12%	13%	10%	22%	1%	4%
18~29歳	12%	5%	3%	16%	21%	2%	3%
30代	23%	3%	4%	15%	15%	-	-
40代	28%	13%	5%	17%	18%	2%	6%
50代	24%	14%	13%	12%	15%	1%	4%
60代	38%	13%	10%	7%	25%	-	6%
70代	43%	14%	22%	4%	24%	3%	6%
80歳以上	39%	12%	32%	2%	28%	7%	2%
全体	30%	11%	12%	11%	20%	2%	4%

Q15. あなたが社会についての情報を得る際に、最も利用しているものは何ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	テレビ	ラジオ	新聞	インターネット [Twitter なども含む]	家族や友人からの 話	その他
男性	35%	2%	16%	34%	2%	-
女性	48%	1%	10%	29%	0%	0%
18～29歳	17%	-	-	76%	-	2%
30代	27%	-	4%	59%	1%	-
40代	33%	5%	5%	45%	1%	-
50代	53%	2%	8%	25%	-	-
60代	52%	-	16%	17%	2%	-
70代	50%	2%	27%	8%	1%	-
80歳以上	53%	2%	32%	-	2%	-
全体	42%	2%	13%	31%	1%	0%

Q16. あなたは、現在の政治に対してどの程度満足していますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	大いに 満足している	だいたい 満足している	やや 不満足である	大いに 不満足である	わからない
男性	-	18%	43%	31%	7%
女性	-	19%	44%	26%	11%
18～29歳	-	21%	34%	19%	24%
30代	-	11%	48%	24%	16%
40代	-	19%	44%	29%	8%
50代	-	13%	44%	35%	7%
60代	-	9%	52%	31%	5%
70代	-	20%	42%	31%	6%
80歳以上	-	46%	30%	16%	7%
全体	-	18%	43%	28%	9%

Q17. 日本の政治家（国会議員、地方議員、首長など）を考えた時、あなたは、政治家についてどんな印象を持っていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	とても信頼 できると思う	ある程度信頼 できると思う	あまり信頼 できないと思う	全く信頼 できないと思う	わからない
男性	0%	24%	51%	21%	3%
女性	-	24%	50%	18%	7%
18～29歳	-	22%	48%	19%	10%
30代	-	11%	65%	19%	5%
40代	-	21%	46%	26%	7%
50代	-	23%	52%	21%	4%
60代	-	24%	50%	20%	2%
70代	-	26%	59%	11%	4%
80歳以上	2%	49%	26%	14%	7%
全体	0%	24%	51%	19%	5%

Q18. あなたは普段、テレビ、新聞、インターネットで政治のニュースをどの程度見たり読んだりしますか。それぞれ1つ選んで番号に○をつけてください。

A. テレビで政治のニュースを見る

	ほぼ毎日 見ている	週に1回以上 見ている	あまり見ない	まったく見ない	わからない
男性	67%	17%	9%	5%	1%
女性	68%	19%	10%	3%	1%
18～29歳	40%	24%	24%	10%	2%
30代	53%	28%	10%	8%	-
40代	59%	24%	13%	4%	-
50代	71%	13%	10%	4%	2%
60代	88%	7%	1%	1%	1%
70代	75%	17%	7%	-	-
80歳以上	77%	18%	4%	-	2%
全体	67%	18%	10%	4%	1%

B. 新聞で政治の記事を読む

	ほぼ毎日 読んでいる	週に1回以上 読んでいる	あまり読まない	まったく 読まない	わからない
男性	36%	13%	16%	33%	1%
女性	25%	15%	18%	41%	0%
18～29歳	-	3%	17%	79%	-
30代	11%	9%	10%	68%	-
40代	14%	19%	16%	50%	1%
50代	29%	14%	21%	35%	-
60代	45%	15%	18%	17%	1%
70代	47%	16%	22%	13%	1%
80歳以上	63%	16%	12%	9%	-
全体	30%	14%	17%	37%	0%

C. インターネットで政治のニュースを見る

	ほぼ毎日 見ている	週に1回以上 見ている	あまり見ない	まったく見ない	わからない
男性	47%	16%	16%	16%	1%
女性	36%	20%	19%	22%	1%
18～29歳	31%	26%	29%	14%	-
30代	51%	27%	16%	6%	-
40代	63%	23%	10%	4%	-
50代	51%	21%	18%	10%	-
60代	42%	16%	20%	17%	1%
70代	21%	6%	19%	44%	3%
80歳以上	7%	7%	12%	51%	7%
全体	41%	18%	17%	19%	1%

さいたま市選挙管理委員会
埼玉大学社会調査研究センター

64% (636/1000)

「さいたま市民の政治・選挙に関する意識調査」2021年6月

さいたま市選挙管理委員会では、埼玉大学社会調査研究センターと共同で、いまの政治への関心や選挙への対応などを有権者のみなさまにお聞きし、投票環境整備や効果的な啓発手法を考えるために活用させていただきたいと考えております。

さいたま市内10区の選挙人名簿から、無作為に1,000人の方を抽出したところ、あなた様にご協力をいただくことになりました。ぜひ、ご意見をお聞かせください。回答いただいた内容は、統計的に処理して「〇〇に賛成△△%」といった形で分析しますので、お名前や具体的に記入いただいた回答が外部に公表されることはございません。また、ご記入の調査票は裁断し、情報管理を徹底してまいります。

この調査には、ご本人様にご回答ください。右上にある「整理番号」は、調査票が返送されたかどうかの確認を行うためのものです。お名前を書いていただく必要はありません。

申し訳ありませんが、6月18日(金)までに、同封の封筒にてご返送くださいますようお願いいたします。

お問い合わせ>埼玉大学社会調査研究センター(担当・菱山=ひしやま) Tel:048-858-3120 Fax:048-858-3115
9時~16時(月曜日から金曜日、祝日を除く) e-mail: ssrc@gr.saitama-u.ac.jp

この下の Q1 からお答えください

Q1. あなたは、国や地方の政治について、どの程度関心がありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 非常に関心がある 13%
2. ある程度関心がある 61%
3. あまり関心がない 21%
4. 全く関心がない 3%
5. わからない 1%

Q2. あなたは、誰かと政治的な事柄を議論したり、話題にしたりすることがありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 毎日ある 3%
2. 週に何回かある 23%
3. 週に1度ぐらいある 34%
4. まったくない 27%
5. その他() 10%
6. わからない 2%

Q3. あなたが学生時代に経験した選挙に関する授業やイベント(行事)で印象に残っているものはありますか。あてはまるものすべてを選んで○をつけてください。

1. 学校での授業 20%
2. 選挙出前講座・模擬投票 2%
3. 明るい選挙啓発ポスターコンクール 5%
4. 生徒会・学級委員などの選挙 41%
5. 国会・県議会などの議事堂見学 23%
6. その他() 2%
7. 特にない 35%

Q4. あなたは、5月23日のさいたま市長選挙について、どの程度関心がありましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 非常に関心があった 7%
2. ある程度関心があった 37%
3. あまり関心がなかった 38%
4. 全く関心がなかった 16%
5. わからない 1%

Q5. あなたは、5月23日のさいたま市長選で投票しましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 投票した 42% ⇒ Q6へ
2. 投票しなかった 57% ⇒ Q11へ
3. わからない 0% ⇒ Q13 (3ページ)へ

「1. 投票した」と回答した人への質問

Q6. あなたは、どなたと投票に行きましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 1人で 46%
2. 家族と 54%
3. 知人等と —
4. その他 (具体的に) —

Q7. あなたは、さいたま市長選挙で候補者を選ぶ時、どういふ点を考えて投票する人を決めましたか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 地元の利益を考慮して 32%
2. 自分と同じような職業の利益を考慮して 4%
3. 自分と同じような世代の利益を考慮して 13%
4. 候補者の政策や主張を考慮して 65%
5. 候補者の人柄を考慮して 34%
6. テレビや新聞、雑誌などで親しみを感じていたから 5%
7. 家族や知人に勧められたから 4%
8. その他 (具体的に) 12%
9. わからない 1%

Q8. あなたが、さいたま市長選挙で投票所に行った際に、どのような交通手段を利用しましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 徒歩 62%
2. 自転車、バイク 17%
3. 自家用車 20%
4. タクシー —
5. 公共交通 (JR・私鉄・バスなど) 1%
6. その他 (具体的に) —

Q9. さいたま市長選挙では新型コロナウイルス感染症対策の一つとして、投票所の混雑を避けるために過去の混雑状況を、投票所整理券に同封の啓発紙やホームページ等で周知しました。あなたは、投票の際に、混雑状況を参考にしましたか。

1. 参考にした 29% ⇒ Q10へ
2. 参考にしなかった 68% ⇒ Q13 (3ページ)へ

Q10. Q9で「1. 参考にした」と回答された方について、どちらで投票をしましたか。

1. 期日前投票所で投票した 47%
2. 当日の投票所で投票した 52%
3. その他 () —

次のページの Q13に進んでください

「2. 投票しなかった」と回答した人への質問

Q11. あなたが投票しなかったのは、なぜですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 仕事や旅行など、他の用事があったから 20%
2. 病気などで体調が良くなかったから 13%
3. 投票に行こうと思ったが、忘れてしまったから 13%
4. どのように投票すればよいかわからなかったから 1%
5. 市長選挙があることを知らなかったから 9%
6. 投票するのが面倒だったから 11%
7. 投票日時や投票場所がわからなかったから 2%
8. 投票所整理券 (入場券) を紛失したから 1%
9. 政治や選挙に関心がなかったから 10%
10. 投票したいと思う候補者がいなかったから 27%
11. 政策がわからなかったから 14%
12. 自分の一票では選挙の結果は変わらないから 15%
13. 選挙によって世の中は変わらないから 10%
14. 新型コロナウイルスの感染が怖かったから 18%
15. その他 (具体的に) 13%
16. わからない 1%

Q12. あなたは、どういう状況ならば投票しようと思いますか。2つまで選んで番号に○をつけてください。

1. 投票所が近かったら 16%
2. 投票所までの無料バスなどが運行されたら 1%
3. 区内の投票所であればどこでも投票できたら 5%
4. 駅やショッピングセンターなどで投票できたら 21%
5. 期日前投票が早朝や午後8時以降もできたら 7%
6. 投票日の投票時間が延長されたら 2%
7. インターネットや郵送による投票ができたら 54%
8. その他 (具体的に) 15%
9. わからない 10%

次ページの Q13に進んでください

ここからは全員への質問です。

Q13. 今回の市長選挙で、さいたま市選挙管理委員会及び明るい選挙推進協議会等が投票参加の呼びかけを行いました。下の中であなたが見たり聞いたりしたものがあれば、すべて選んで番号に○をつけてください。

1. 市役所・区役所でののぼり旗など 10%
2. 横断幕・懸垂幕（駅や市・区役所） 8%
3. 啓発ポスター（自治会掲示板等） 37%
4. 投票所整理券に同封されている啓発チラシ 21%
5. 市報さいたま 34%
6. 市の選挙特設ページ 5%
7. サッカースタジアムでの大型映像広告 ー
8. インターネット広告 1%
9. コンビニエンスストアでの広告・アナウンス 1%
10. デパート・百貨店・市役所・区役所でのアナウンス 1%
11. 市の広報車（候補者の選挙運動自動車は含まない） 11%
12. 啓発物（ウェットティッシュ） ー
13. その他（具体的に) 3%
14. どれも見たり聞いたりしなかった 28%

Q14. 今回の市長選挙で、あなたが候補者を選ぶためにもっとも参考にしたものを2つまで選んで番号に○をつけてください。

1. 選挙公報 30%
2. 候補者の新聞広告 11%
3. 新聞・雑誌やテレビの報道 12%
4. インターネットやホームページの選挙情報 11%
5. 掲示場にはられた候補者のポスター 20%
6. 候補者からのハガキ 2%
7. 候補者による駅や街頭での演説 4%
8. 候補者のビラ 4%
9. 電話による依頼 0%
10. 選挙運動自動車からの連呼 2%
11. どれも参考にしなかった 25%
12. わからない 11%

Q15. あなたが社会についての情報を得る際に、最も利用しているものは何ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. テレビ 42%
2. ラジオ 2%
3. 新聞 13%
4. インターネット [Twitter(ツイッター)なども含む] 31%
5. 家族や友人からの話 1%
6. その他（具体的に) 0%

Q16. あなたは、現在の政治に対してどの程度満足していますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 大いに満足している ー
2. だいたい満足している 18%
3. やや不満足である 43%
4. 大いに不満足である 28%
5. わからない 9%

Q17. 日本の政治家（国会議員、地方議員、首長など）を考えた時、あなたは、政治家についてどんな印象を持っていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. とても信頼できると思う 0%
2. ある程度信頼できると思う 24%
3. あまり信頼できないと思う 51%
4. 全く信頼できないと思う 19%
5. わからない 5%

Q18. あなたは普段、テレビ、新聞、インターネットで政治のニュースをどの程度見たり読んだりしますか。それぞれ1つ選んで番号に○をつけてください。

A. テレビで政治のニュースを見る

1. ほぼ毎日見ている 67%
2. 週に1回以上見ている 18%
3. あまり見ない 10%
4. まったく見ない 4%
5. わからない 1%

B. 新聞で政治の記事を読む

1. ほぼ毎日読んでいる 30%
2. 週に1回以上読んでいる 14%
3. あまり読まない 17%
4. まったく読まない 37%
5. わからない 0%

C. インターネットで政治のニュースを見る

1. ほぼ毎日見ている 41%
2. 週に1回以上見ている 18%
3. あまり見ない 17%
4. まったく見ない 19%
5. わからない 1%

次のページに続きます。

◆最後に、今回の調査結果を統計的に処理するために、いくつかおうかがいします。

F 1. あなたは男性ですか、女性ですか。

1. 男性 45% 2. 女性 55%

F 2. あなたの年齢について、あてはまる番号に○をつけてください。

1. 10代 2% 5. 50代 20%
2. 20代 7% 6. 60代 14%
3. 30代 12% 7. 70代 17%
4. 40代 19% 8. 80歳以上 9%

F 3. あなたが最後に在籍した（または現在在籍している）学校を1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 中学校（旧制高等小含む）5%
2. 高校（旧制中学含む）28%
3. 高専・短大・専修学校 22%
4. 大学（旧制高専含む）41%
5. 大学院（修士・博士）2%
6. わからない 0%

F 4. あなたの現在のお住まいは、次のうちどれですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 持ち家（一戸建て）57%
2. 持ち家（マンションなどの集合住宅）22%
3. 賃貸住宅（一戸建て）2%
4. 賃貸住宅（マンション、アパートなどの集合住宅）17%
5. 社宅・寮 1%
6. その他 1%

F 5. あなたは、一人住まいですか。それとも家族等の方と同居されていますか。

1. 一人住まい 11%
2. 家族等と同居 87%
3. その他 2%

F 6. あなたにはお子さんがいますか。

1. いる 70% 2. いない 30%

F 7. あなたのご自宅から投票所へ行くのには、何分くらいかかりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 5分未満 29%
2. 10分未満 44%
3. 20分未満 17%
4. 20分以上 4%
5. わからない 5%

F 8. あなたは、さいたま市に住んでどのくらいになりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 1年未満 1%
2. 2～3年未満 6%
3. 4年～10年未満 11%
4. 10年～20年未満 19%
5. 20年以上 63%

F 9. あなたのお宅には、家庭用の固定電話がありますか。（携帯電話のみの方は「2. ない」に○を）

1. ある 74% 2. ない 25%

F 10. あなたは現在、スマートフォンを持っていますか。

1. はい 85% 2. いいえ 14%

F 11. 最後に、あなたは、ご自宅で電話を使う場合次のどれに当てはまりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 固定電話だけ使う 6%
2. 携帯電話だけ使う 42%
3. 両方使うが主に固定電話 9%
4. 両方使うが主に携帯電話 36%
5. 両方とも同じ程度使う 6%
6. 両方とも使わない 1%

ご協力ありがとうございます。

この回答用紙は、返信用封筒（切手が貼られているもの）に入れ、6月18日（金）までに、ご返送ください。早めにご投函いただければ幸いです。

この調査について、ご意見やご要望があれば、下の余白にご記入ください。